

第105回 記者懇談会実施概要

- 1 日 時 平成27年9月16日(水) 15:30~17:30
- 2 場 所 関西大学千里山キャンパス 100周年記念会館 第2会議室
- 3 内 容

(1) 研究発表・質疑応答(15:30~16:30)

- ・岡本 哲和 政策創造学部教授
発表テーマ「ネット選挙解禁：本当に何も変わらなかったのか？」
- ・山崎 和俊 システム理工学部准教授
発表テーマ「確率論と金融・保険」

(2) 学内状況説明・情報交換(16:30~17:30)

- ① 第35回「地方の時代」映像祭2015の開催について 資料1
- ② 人間健康研究科博士課程後期課程および
心理学研究科博士課程前期課程心理学専攻の設置について 資料2
- ③ 第12回三大学連携事業について 資料3
- ④ 関西大学おおさか文化セミナー【後期】の開催について 資料4
- ⑤ 年史資料展示室企画展
「100年の軌跡 新時代の幕開け 関西大学野球部100年」の開催について 資料5
- ⑥ リクルート社「進学ブランド力調査2015」の結果について 資料6
- ⑦ 関西大学フェスティバル in 九州の開催について 資料7
- ⑧ 3年次生父母・保護者対象 就職説明懇談会の開催について 資料8
- ⑨ 関大生の活躍について 資料9

4 大学側出席者

楠見晴重学長、西村枝美学長補佐、
岡本哲和政策創造学部教授、山崎和俊システム理工学部准教授、
市村元「地方の時代」映像祭プロデューサー、
中川雄弘広報課長、宮武明生学長課長 他

5 参考資料

- (1) 関西大学ニューズレター「Reed」No. 42
- (2) 社会人のための関西大学サタデー・カレッジ チラシ
- (3) 関西大学ミュージアム講座 チラシ
- (4) 関西ネットワークシステム第50回定例会&第15回INS in 関西 チラシ
- (5) 行事予定表(9月~10月)

以 上

【次回(第106回)記者懇談会開催予定】

日 時：平成27年10月21日(水) 15:00~17:00
場 所：千里山キャンパス 100周年記念会館 第2会議室

ネット選挙解禁：本当に何も変わらなかったのか？

政策創造学部 教授 岡本 哲和

【概要】

7月21日に投票が行われた第23回参議院選挙は、「ネット選挙」解禁後に実施された最初の国政選挙であった。選挙前の期待の高まりから一転して、選挙後のネット選挙の効果についての評価は概ね否定的なものとなった。投票率などの数字に目に見える変化が現れなかったことが、その理由の1つである。

だが、果たしてそうだったのか。当日の発表の目的は、単なる印象論を排して、2013年参院選におけるネット選挙解禁の効果をあらためて検証することにある。特に有権者の投票行動に対する影響に焦点を合わせた上で、発表者が実施した調査の結果とそれを用いた分析の一部を紹介する。マクロなレベルでは、現時点でのネット選挙解禁の効果は、確かに大きなものとは言えない。だが、ミクロなレベルで見れば、有権者の行動に対して解禁は一定の影響を及ぼしていた。これが当日の発表のポイントである。

2016年の参議院選挙からは、選挙権が20歳以上から18歳以上に引き下げられる。若い有権者層は投票にあたって、インターネットからどのような影響を受けているのか。これについても調査の結果を紹介しつつ議論を行う。

【プロフィール】

関西大学政策創造学部教授・法学研究所所長。専門は政治学。現在の主たる研究テーマは、インターネットが政治・選挙に及ぼす影響についての分析、政策の廃止・終了についての実証研究、政府の情報管理政策など。

確率論と金融・保険

システム理工学部准教授 山崎和俊

【概要】

数学は自然科学や工学のみならず社会科学や人文科学においても大切な役割を果たしている。その代表的なものとして、確率論の金融と保険への応用とその今日抱える課題について論じる。

古代オリエント時代から存在するといわれる保険は、確率論の基本定理「大数の法則」を土台とした合理的な理論に基づいており、今日の社会はそれなしには成り立たない。多数の者が保険料を出し合い、偶然に発生しうる大規模な被害に備えることで、発生した場合に保険金を給付するシステムであり、参加者数が増加するほど不確実性（リスク）を減少・分散させることができる。

金融の世界では 1973 年に発表されたブラック・ショールズの公式の誕生を境に、確率解析を用いた研究が主流になった。欧米を中心に今日数理計量ファイナンス・金融工学と呼ばれる分野が確立され、最新の確率論を駆使した様々な研究が行われている。その確率解析には、「伊藤の公式」と呼ばれる故伊藤清京都大学名誉教授の作り上げたツールが必須であり、我が国での発見を基礎に発展してきた分野でもある。近年ではコンピュータの発達もあり、数値的なアプローチも可能になっている。

金融・保険、それぞれの分野で様々な発展を遂げていった一方、常に新しい課題も生まれてきている。金融市場では、取引・情報取得の高速化を背景に、迅速かつ高精度なリスク管理が求められている。保険市場においては、温暖化によるといわれる災害の大型化が顕著にみられ、特に再保険市場での安定化が求められている。また、とりわけ日本国内では医療の発達や高齢化とともに保険金が急増しており、その傾向は今後も不確実的に続いて行くと考えられる。これらの課題を解決するべく、今後の数学の可能性について論じる。

【プロフィール】

1979 年愛知県生まれ。関西大学システム理工学部准教授。専門は確率論、数理ファイナンス、保険数学、オペレーションズリサーチ。Brown University 卒業 (Computer Science-Applied Mathematics 専攻)、Princeton University, Ph.D. (Operations Research and Financial Engineering)。2014 年 4 月以降、現職。学術論文は、Contraction Options and Optimal Multiple-Stopping in Spectrally Negative Levy Models (Applied Mathematics and Optimization, 72(1), p.147-185, 2015)など。趣味は野球観戦。